

令和7年度 第1回上島町総合教育会議 議事録

日 時	令和8年3月3日(火) 10時05分～11時55分
場 所	せとうち交流館 多目的ホール
出席予定員	上島町長 上村 俊之 教育長 田坂 敏 教育委員 山本 ころこ(やまもと ころこ) // 古江 克巳 (ふるえ かつみ) // 大船 英夫 (おおふね ひでお) // 寺下 貴義 (てらした たかよし)
事務局	総務部長 田房 良和 総務課長 坂上 将人 課長補佐 前神 愛 学校教育課長 山本 勝幸 生涯学習課長 柏原 利昭 課長補佐 西本 桂将 指導主事 井出 和宏 指導主事 曾我部 芳昭
欠席委員	
議 題	日程第1 町長あいさつ 日程第2 上島町児童生徒の学力・体力について 日程第3 小中学校のICT活用状況について 日程第4 上島町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について 日程第5 上島町学校適正配置基本計画(案)について 日程第6 その他
議 事	※挙手及び発言の許可部分は省略
事務局 (総務課長)	それでは、定刻となりましたので令和7年度 第1回 上島町総合教育会議を開催いたします。 はじめに上島町長 上村俊之からご挨拶を申し上げます。町長 よろしくお願ひします。
町長	皆様、ご苦勞様でございます。先ほどまで教育委員会の会議ということで、議論を尽くされた と思います。私も町長室で仕事をしていて、今日は体も動かさず、大して仕事もしてないのに 疲れたな、というときがあります。それは何かというと、いろんな問題、いろんな議論の中で、 頭をどんどん使っている。自分では、働いてない、体を動かしていないつもりでも、頭を回転さ せるっていうのは、カロリーを使うし、ストレスにもなるし、大変な消費量、であると思います。 皆さん今、1時間ぐらいあったんですかね。大変疲れているとは思いますが、引き続き、総合教 育会議にご協力いただきたいと思っております。総合教育会議の目的はもう、釈迦に説法でご ざいますので、教育委員の皆様にはお伝えはしませんけれども、上島町の教育、子供たちの環 境をいかに良くするかというのが目的だと思います。そして、この教育というのが、即効性は ありませんが、上島町の将来を作っていく上で、一番大切なものだと思っておりますので、重 要な会議のひとつになると思います。どうか皆様方のご意見、ご提言をいただきまして、少し でも、子供たちの教育環境がよくなることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。どうぞ よろしくお願ひいたします。
事務局	ありがとうございました。それではこれより議事に移ります。

(総務課長)	議長につきましては、上島町総合教育会議運営要綱第4条により、町長が務めることになっておりますので、町長、議長の方、よろしくお願いいたします。
議長(町長)	はい。それでは本日の日程に沿って進めさせていただきます。日程第2、上島町児童生徒の学力、体力について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (曾我部指導主事)	<p>失礼いたします。学校教育課指導主事の曾我部です。よろしくお願いいたします。</p> <p>(資料に沿って説明 以下概要)</p> <p>1. 全国学力・学習状況調査(学力) 対象:小6、中3</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数・理科の平均正答率は すべての項目で全国・県平均を大きく下回る ・特に、思考力・判断力、記述式問題全般が課題となっている ・児童質問紙では、 <ul style="list-style-type: none"> ・「自己肯定感」「学校が楽しい」は全国より高い ・「平日に家庭学習を1時間以上する」児童が少ない(全国平均を17ポイント以上低い) ▶ 中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・理科とも、ほとんどの項目で全国平均を上回る好結果 ・質問紙では「授業内容がよく分かる」「平日に家庭学習を1時間以上する」が全国より大幅に低い。 ・全体的な学力が高い一方で、自己肯定感が小学生より低下傾向 <ul style="list-style-type: none"> → 小学校での自己肯定感を、中学校での学習意欲に繋げる小中連携が課題 ▶ 学力面での共通課題と対策(小中共通) <ul style="list-style-type: none"> ・情報を正しく読み取る力 ・自分の考えを説明・表現する力 ・学校外でも自ら学ぶ姿勢(家庭学習の習慣) ▶ 今後の主な対策 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の質・量の向上 <ul style="list-style-type: none"> → 宿題の「意図」を明確にし、授業と連動した課題へ、学校と家庭の連携 ・個に応じた学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> → eライブラリ、eスタ、電子書籍などデジタル教材の活用 教員の見取りや声掛けと組み合わせて基礎学力を定着 ・ICT とアナログのバランス改善 <ul style="list-style-type: none"> → 書く・語る・考える時間の確保のため ICT を活用しつつ、対話的な学びを強化 <p>2. 体力・運動能力調査の結果 対象:小5、中2</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 体格面 <ul style="list-style-type: none"> 男子 肥満傾向の割合が全国より高い(小5・中2とも) 女子 概ね全国並み(小5)、肥満傾向が全国より高め(中2) ▶ 実技面 <ul style="list-style-type: none"> 小5男子:8種目中5種目で全国平均を超えている 握力・持久力が特に高い 小5女子:8種目中5種目で全国平均を下回る 特に50m 走が低い

中2男子:9種目中8種目が全国平均を下回る 立ち幅跳びが特に低い
中2女子:ほぼ全国平均を超えており良好 特にハンドボール投げが高い
→ 各校で「体力アップ推進計画」を策定し改善に取り組んでいる

議長(町長)

ありがとうございました。

事務局から説明がございましたが何かご意見、ご質問ございませんでしょうか。

大船教育委員

最初に学力についてですが、小学生は残念ながら全ての科目で、全国平均を下回っているという報告です。また、中学生になると反対に、すべての科目で全国平均を上回っているということで、小学生と中学生で、これだけ極端に違うのは、何か原因があるんじゃないかと、心と考えてしまいます。それと先ほど、今後の対策として、余暇、ゲームとの学習のバランスの良い取り組みとありましたが、魚島のさざなみ留学の寮生活では、午後9時以降は、スマホは使用禁止としています。9時までには寮生自らスマホを職員に預けています。やはり小中学生については、家庭でも、親がある程度管理する必要があるのではないかな、と感じております。次に体力についてですが体格は全国平均が、学年によっては上回っているということで特に問題はないかと思えます。実技についても、学年、また種目によっては、全国平均より上だったり下だったり、これも仕方ないことだと思っております。昨年私は、体力アップ推進計画の中に、岩城小中学校が積極的に柔軟性を高める動きを、取り入れているという目標があり、大変良いことだと言いました。今年は、他の取り組みを目標に掲げていますが、現在でも柔軟性を高める運動を、積極的に取り入れていただいていることと思っております。体が硬いということは、スポーツをする上で、怪我を負うリスクが随分と高まりますので、今後も全学校で、柔軟性を高める運動を、積極的に取り入れていただきたいと思っております。最後になりますが、昨年私の方から、この資料が小さくて見えにくいので、改善して欲しいとお願いしていましたが、今年は早速、字も大きくなっており、また、グラフの代わりに一覧表で、大変見えやすくなっており本当によかったです。ありがとうございます。

議長(町長)

今のご意見、質問に関して事務局からお答え願います。

事務局
(曾我部指導主事)

全国学力学習状況調査の結果が、全国や県の平均よりも、小学校については大きく下回ってしまった点について、対象が41名ということで、特定の数名の結果が全体の平均値を大きく押し上げたり、押し下げたりするということがありますので、一概に今年度だけで比較することは出来かねますが、なぜ中学生の方が結果がいいのか、と問われますと、中学校3年生が小学6年生のときにも、全国平均よりも高かったという結果が残っております。その要因としましては、現在の調査では、単なる知識の暗記よりも、自分の考えを言葉にする力というのが重視されております。そこで、テストに書くことに抵抗がある、または、空欄が多いとなりますと、平均点は著しく下がることとなります。様々な理由から、このような結果になっているということ进行分析し、少人数だからこそ、一人ひとりの結果がよくわかりますので、一人ひとりに合った教育を試みて参りたいと思っております。2点目の体力向上の中の柔軟性と言う点につきましては、やはり子供たち、近年、体が硬い児童生徒は多くなっております。これは、柔軟の体操していないからというわけではなく、それだけが要因ではないかと思えますけれども、授業の前、そしてあと、必ず準備運動、整理運動をしております。子どもたちにもしっかりと、何のためにやっているのかを意識させ、日々の授業を行っていく必要があろうかと思っておりますので、これも、

	長い目で、しっかり継続して参りたいと思っております。
議長(町長)	はい。ありがとうございます。何か他に何かご意見ございませんでしょうか。
山本教育委員	まず学力からなんですけれど、このような結果は小学校6年生に至りまして、消化できていないことが現れたんだとしたら、これが4月の結果ですから。先生方におかれましては、間違いなくフォローアップをその後してくださっていると信じておりまして、次の中学校入学を目前に控えて、スイッチの切り換えをして、伸びしろに期待したいところです。元気のいい、今の6年生たちですので、他のことをいっぱい学んでいるんだと思うんですね。家に帰ってから、勉強は手につかずとも、何か別の課外活動をたくさんされているような感触を持っている学年です。ポテンシャルはたくさんあると思いますので、ぜひ今後とも、よく宿題も出してやってくださって、家庭学習のチェックですね。時間も大事ですけど質も、よろしくご指導、お願いいたします。体力の方なんですけれども、小学校5年生が14名っていうのは、表で数えています、児童は26名ほどいたような気がするんですが、これが14名の理由はあるんでしょうか。
議長(町長)	事務局、お願いいたします。
事務局 (曾我部指導主事)	体力調査の結果につきましては、すべての種目を行っている児童の調査になっておりますので、こちらでお示ししたのは、全部の種目をした結果、14名になったと。体調が悪くてできなかった児童、欠席していてできなかった児童、そういった事情がありまして、こういったことになっております。学力につきまして引き続き、教育委員会としても学校をバックアップしていきたいと思っております。
議長(町長)	他に何かございませんか。
寺下教育委員	何点か質問させていただくと、まず体力テストのところについて、対象の小学校の5年生と中学校の2年生は、男女比で結果を出しているなら、最初のところで男女の数を入れていただければ、もう少しわかりやすかったかなあといいところがありますので、また来年度ご対応いただけたらと思います。それと学力のところでも少し気になったところが、中学生の理科の結果に、0点の回答が3問あって、大きく下回ってるっていうようなご回答だったんですけども、こちらは子どもたちに指導したけどわからなかったのか、指導していないからわからなかったのか、そのところは何かあるんでしょうか。
議長(町長)	事務局、お願いいたします。
事務局 (曾我部指導主事)	理科の件ですが、今年度から IRT の調査になりまして、こちらにお示ししている全ての設問を、全ての生徒が答えているというものではありません。文部科学省のデータの示し方がこのようになっているのは、非公開問題と公開問題に分かれておりまして、実際に中学校の生徒が答えていない問題もございますので、一概にこの問題を、すべての生徒が取り組んでいるかと問われますと、それはちょっと我々にもわかりかねるところです。中学校の理科につきましては、実験データの分析、あるいは、分析結果から推論を必要とする問題、これに課題があるとは捉えております。ですので、このゼロという数字が、実際に解いていなくてゼロなのか、実際

	<p>に解いてゼロなのかというのはわかりかねるところもあるんですけども、集団の中での意見交換だったり、実験や観察の振り返りというような部分については、やはり弱いところはわかっておりますので、その部分について、中学校の方にも、しっかり説明をして、取り組んでいただくように努めたいと思っております。</p>
議長(町長)	<p>他にございませんか。</p>
古江教育委員	<p>学力の件なんですけど、小学生の方が平均より随分下がっていて、中学生の方が平均値よりも良い成績が出ていることが、ちょっと気になるところです。今、学校の適正配置の問題がある上で、これがもし、小学生の学力の低いところが複式学級によるものなのか。複式学級が、もしその要因のひとつであるのなら、これからの学校の適正配置についても、このこともしっかりと考えて、今後の対策も一生懸命やっていかないといけないんじゃないかなと思いました。</p>
議長(町長)	<p>事務局、回答をお願いします。</p>
事務局 (曾我部指導主事)	<p>我々教員としては、複式であろうがなかろうが、精一杯、子どもたちの学力向上に努めておるところです。今回の結果は対象児童数が少ないということで、子どもたちの状況によって、大きく点数が上がったり下がったりということはあります。ただ、先ほど申し上げました、一人ひとりの弱点を把握しやすいという点では、やはり上島町の強みでありますので、4月に調査して、1年がたとうとしておりますので、この後、どのように子どもたちが力を伸ばしているのかということについては、また、教育委員会としても把握して参りたいと思っておりますし、それから、子どもたちの実態把握が一番の出発点でありますので、その上で子どもたちの力を伸ばせるよう努めて参りたいと思っております。</p>
議長(町長)	<p>ほかによろしいですか。</p>
田坂教育長	<p>先ほどの結果なんですけど、私も愕然としております。本来上島は、昔から学力は非常に高かったんです。年々下がりつつあるというのは、私も存じておるわけなんですけれども、それは何が原因かというのは、いろんなものがあろうかと思っております。学年ごとの子どもの特質もあつたりするので、一概にこれを決めつけるものではありませんし、学力学習状況調査で一喜一憂するものでもないと思っております。ただ、今のこの現実を正しくとらえて、これはもう学校あるいは家庭との連携が当然必要ですので、まず学校へ確認をしたいのは、どういう状況、どういう原因が考えられるかということ。学校別にも聞いてみたいと思っておりますし、ここにありました、1日の家庭学習時間が短いというの、ひとつの原因ではないかと思うんですけども、これは家庭との連携が非常に大事じゃないかなと思います。昔は、皆さんもご経験があるかと思うんですけど、学習につまづいている子は残して、学校で補習をしたりしていたんです。これは何年か前から、学校から帰るときは危険があるということで、一斉下校で、学校に残さないというふうになりました。ですので、学校で学習する時間が非常に短くなったということもあります。学習でつまづいている子を、学校で拾い上げることがなかなか難しくなったということもあります。そういったところも学校現場と協議しながら、教育委員会として学校との連携を深めながら、そして必要であれば家庭との連携も深めて、子どもの学力を何とか上げていきたい。将来の子どもたちの生きる力につなげていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>

	す。今後分析させていただきたいと思います。
議長(町長)	他にこの項目について何かございませんか。ないようでしたら次に移らせていただきます。小中学校のICT活用状況について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (曾我部指導主事)	<p>小中学校のICT活用状況についてご説明いたします。 (資料に沿って説明 以下概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ デジタル教材の活用 → 授業・家庭学習で定着している e ライブラリ(ひとり平均 32.5 回ログイン)、e スタ(新聞閲覧・作成) 電子図書館(約 3500 冊読み放題)、コグトレ(特別支援) ▶ 遠隔授業・オンライン交流 魚島中×弓削中の遠隔合同授業(R7年度は中2理科で実施し免許外強化の解消にもつながった) 小学校 4 校オンライン交流(平和遠足の発表など) デジタルサポートルームで授業配信(学級所属感の補強と学習保証) ▶ ICT 活用指導力(教職員) 県とほぼ同水準、さらに研修を充実させスキル向上に努める ▶ 児童生徒の ICT 活用能力 「文字入力」「編集」=県並み 「情報検索」「撮影」=県よりやや低い 「プログラミング的思考」=町も県も低い → 探究的学習で情報検索力の強化、プログラミング学習環境の充実が必要
議長(町長)	事務局から説明がございました。何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。
山本教育委員	弓削中学校に整備されていますデジタルサポートルーム。こちらの方には不登校で教室に行きづらい子どもたちが活用するということで、この数年間本当に不登校児や減ってきておりますけれども、直近1年間の利用状況を報告いただくと助かります。
議長(町長)	事務局お願いいたします。
事務局 (曾我部指導主事)	今年度は1名が利用しています。支援員は2名に増やしております。常に2名いるわけではないですが、必ず1名はデジタルサポートルームにおりまして、学力の個別の相談を受けたり、カウンセリングをしていただいたりというようなことで取り組んでおります。
山本教育委員	現在、不登校だとか学校に来れないお子さんっていうのも、例えば家にいるっていうこともありましたがそういったことも知りたいんですけれども。
事務局 (曾我部指導主事)	デジタルサポートルームは、教室には入れないけれど、学校には行ける子どもたちのためにあります。そして、デジタルサポートルームにもちょっと行けそうにないお子さんもいらっしゃいますので、その子につきましては、1人1台端末を通して、授業を配信するだとか、先生が家庭訪問して、学校の状況を説明するとか、そのような対応をとっております。

議長(町長)	他にございませんでしょうか。
寺下教育委員	遠隔での合同授業とオンラインの交流授業をされているということなんですけれども、こちらの頻度と、来年度以降、これが効果的なので、もっと時間を増やそうという計画はございますか、教えていただきたいです。
議長(町長)	事務局お願いします。
事務局 (曾我部指導主事)	離島ならではの弱みも、このICTを使って繋ぐというこの取り組みは非常に効果的ですので、必ず1学期に1回ずつは各小・中学校でオンラインの交流、もしくは対面での交流という取り組みも、続けております。今年度は、全学期、どの学年におきましても、対面そしてオンラインの交流を続けております。昨年度よりも、その数は増えております。非常に効果的だと思いますので、来年度以降も、早速もう4月の教務主任会というのがありますけれども、そのところで、年間の計画を立てて、実行して参りたいというふうに考えております。
議長(町長)	他にございませんか。
大船教育委員	先ほどの寺下委員の質問と関連があるんですけど、昨年、私の方から紹介しましたが、文科省の事業だったと思います。学校防災教育実践モデル地域研究事業というのがありまして、6年度は、魚島小中学校が指定され、その中の1つの取り組みとして、愛媛大学の先生を講師にお招きして、魚島で講義をして、いただく予定でした。けど、あいにく当日は海が荒れて、船が欠航したため、急遽オンラインでの講義となりました。このように、魚島のような離島では、海が荒れ決行することも多々あると思います。予定していた事業もできないこともありますので、今後とも、ICTの、環境をより一層充実させていただいて、ICT教育に力を入れていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。
議長(町長)	事務局から何かお答えありますか。
事務局 (曾我部指導主事)	ありがとうございます。今後とも、活用と充実に努めて参ります。
議長(町長)	ICTに関して他に何かございませんでしょうか。
古江教育委員	ICTを活用するということに注目がものすごく偏っている中で、自分も学校訪問したときに、交流事業の方を見させてもらっていて、やはり、直接子どもたちが集まってする授業とは、すごく違うっていうのも、自分は感じました。その中で、この上島町の4校が集まっての、子どもたちの活動っていうことについて、教育委員会としての考えを教えてください。
議長(町長)	事務局お願いします。
事務局	ICTの良さ、そして対面での良さ、それぞれあるかと思います。対面での交流も、今年度、必

(曾我部指導主事)	<p>ずどの学校も、どの学年でも行いました。ひとつは、岩城小学校で6年生の平和遠足に行く前に、6年生全員がそこに集まって、学校司書の方に、平和について事前学習をしていただいたんですけども、やはりそこに集まって、子どもたちが感じたことや思ったことを、同学年の友達に意見を述べ合うという姿は、対面ならではのものですし、伝えるときの熱量も全然違いますので、対面の良さというのはあろうかと思います。一方で、先ほどのようにICTの良さってというのは、やはりいつでもどこでも繋がるという、こういった良さもありますので、それぞれの良さを組み合わせた形で、上島町としては、どちらも進めていきたいと思っております。</p>
議長(町長)	<p>他に何かございませんか。では次に行く前に一言、ご案内のように、コロナ等の関係でリモートワークが流行りました。もちろんこのICTも重要なんですけども、今、また会社、大手会社も、どんどん戻ってこいと。リモートワークから対面、一緒になって顔を合わせてやろう、という動きがあるということも、ご認識いただけたらと思います。ICTの良さもあるし、一緒に顔を合わせてやる良さもあるようです。</p> <p>次に、上島町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (井出指導主事)	<p>それでは上島町立学校の教職員、教育職員に関する業務量管理、健康確保措置実施計画についてご説明いたします。</p> <p>(資料に沿って説明 以下概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 計画策定の背景と目的 <p>令和7年6月の給特法改正により、教育委員会は業務量管理計画の策定・公表・報告が義務化。教職員のワーク・ライフ・バランスを高め、負担を軽減し、児童生徒と向き合う時間を確保することで教育の質を高めることを目的とする。</p> ■ 上島町の現状・課題 <p>他市町と比べ長時間労働は少ないが、月80時間(過労死ライン)超の教職員が一部存在。若手教員が多く、業務の偏りが生じている。 →「チーム学校」意識による業務分担が必要。</p> ■ 計画期間・目標 <p>計画期間を令和8～10年度とし、時間外在校時間の削減と、ワーク・ライフ・バランス向上を数値化して毎年見直ししながら進める。</p> ■ 業務の3分類に基づく具体策 <ol style="list-style-type: none"> ① 学校以外が行うべき業務 <p>見守りボランティア・スクールガードの活用、給食費の公会計化の継続 校外活動の連絡調整を地域コーディネーター等へ移行</p> ② 教師以外が参画すべき業務 <p>Web 機能活用による事務軽減、ICT 支援員の活用、 体育館の地域開放は生涯学習課と連携 部活動は休日は地域展開、平日は時間管理を徹底</p> ③ 教師の業務だが軽減すべき業務 <p>栄養教諭の関与強化、ICT による学習評価・成績処理の効率化 スクールカウンセラー等外部人材との連携、学校・家庭・地域の役割分担を明確化</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校が取り組む事項(5点) 授業時数・週授業数の見直し、年間計画・日課表の改善、欠席連絡のPC・スマホ受付 保護者連絡をホームページに一元化、会議のペーパーレス化と効率化 ■ 教職員の健康確保 長時間勤務者は校長・教育委員会による面接指導、勤務間インターバル11時間の確保 ストレスチェックの活用と職場環境改善、有給休暇の連続取得促進 月2回の定時退校日、長期休業中の一斉閉校日(5日) ■ フォローアップと今後の進め方 時間外勤務や有給取得状況を教育委員会や総合教育会議へ報告 ボランティアのさらなる活用、タイムカード・ストレスチェックで進捗管理 課題がある学校には教育委員会が直接支援 管理職向け研修・好事例共有、PTAや地域との協働も推進
議長(町長)	事務局から説明がありました。何かご意見ご質問等ございませんでしょうか。
山本教育委員	<p>普段から教職員の先生方の本当に遅くまでの取り組み、頭が下がる思いです。夜に学校のそばを通ることがあまりないので、何時まで電気が点いているのかっていうのは、ご近所の方だったらわかっていると思うんですけれども、本当にありがたい。ぜひ心の健康、体の健康に気をつけて、子どもたちの学びに当たってもらえるように、バランスを取っていただきたいと思っております。こうして働き方改革が始まってから、よく耳にしますのは、報告のための業務が増えて、またそれが働き方改革に、かえって足を引っ張るってというような、笑い話みたいな話を耳にしますので、定例教育委員会で毎回報告ってというようなことがもし、負担になるのであれば、先生達の年間通じて心の負担にもなりやしないかと心配しておりますので。その辺もどうかと、何かをやめない限りには、仕事量は減らないんだから、その辺で精査して、いろんな呼びかけが外からあるかもしれないんですけれども、やはり先生たちの心を守るためにも、ある程度はお断りするようなことも勇気を持って、していただけたらと思います。</p>
議長(町長)	はい。事務局何かございますか。
事務局 (井出指導主事)	温かい言葉をありがとうございます。調査につきましては極力学校へはせず、できるものであればメールで簡単に、教育委員会で答えられるものは教育委員会で、というふうにしております。定例の教育委員会で毎回は難しいですが、適宜報告して参ります。
議長(町長)	他に何かございませんか。
大船教育委員	この計画については、昨年6月に特別措置法の一部が改正され、第8条が新設されたことにより策定され、総合教育会議で報告するということが義務づけられて、今回報告があったことと思います。この計画書を見てみますと、4ページから6ページには、実施する業務量管理・健康確保措置の内容ということで、業務3分類を踏まえた業務の見直し、学校における措置の推進、教職員の健康及び福祉の確保に関する取り組みと、それぞれ示されており、大変立派な計画ができ上がっていると思います。ただ、この取り組みの中で少し気になったのが、6ページの下の方に、8年度中に2回以上の退校日を設定するとありました。これについては上島町役場

	の方では、もうすでに何年も前から、週2回のノー残業デーを設けて、夕方5時15分から全職員退庁することになっていた記憶がありますが、それは坂上課長、今でも続いていますか。
事務局 (総務課長)	はい、続いています。
大船教育委員	学校現場において、今までなかったというのが少し意外に思いました。今回この計画書を策定し、明確化したわけなんですけど、現状として、自主的に退校日を決めて、実施している学校は、上島町にはありますか。
事務局 (井出指導主事)	現在、自主的に「この日」というのを決めている学校があるとは聞いておりません。中学校なんかは、テスト期間中はなるべく早く帰りましょうとか、そういう呼びかけはしていると。
大船教育委員	それと同じく6ページ、先ほどの上の方に時間外在校時間、月80時間を超えた教職員に、校長・教育委員会による面接指導を実施する。また、7ページの中頃には、目標の達成状況については、タイムカードで把握するとありますが、これについても時間が来たからといって、一応タイムカードだけを押してそのあとも仕事をしている人がいないか、また仕事を家に持ち帰っている人がいないかなど、表面上だけではなく、実態も伴う監督指導をしていただき、一部の教職員だけに大きな負担とならないよう、その辺についてもご指導をと思います。
議長(町長)	事務局お願いいたします。
事務局 (井出指導主事)	貴重なご指摘ありがとうございます。表面的な取組にならないよう、校長教頭をはじめとする管理職と連携し、指導・支援をして、実効性のある取組を進めて参りたいと思います。
議長(町長)	ほかにありませんか。
田坂教育長	貴重なご意見ありがとうございました。私が若いころはこんなこと一切なくって、もう学校へ徹夜して残るような、そういった時代でした。今考えると、働き方改革で教員を守っていくというのは、今の国の流れ、社会の流れなので、当然、我々も学校に対しては教員のためにも、こういったことを計画立てて実施していこうと思っております。けれども大事なのは、やはりこれをする事で、子どもの教育の量、質が下がっては困るので、そこは見極めないといけないというのは、非常に思っております。確かに教員の健康を保全するのは当然なんですけれども、それをするあまり、教育の手薄さ、配慮のなさ、逆に言えば、教育の質が下がってしまうようなことにならないよう、いろいろな角度から分析しながら、この働きかけについては進めていこうと思っております。今後とも温かい目で教員を見守っていただきたいと思っておりますし、子どもの成長に向けても、温かく見守っていただきたいというふうに思っております。
議長(町長)	他にございませんか。
古江教育委員	ちょっと外れるかもしれないんですが、私からお願いというか、学校教職員に対しては、労働時間に関して結構厳しくいろいろと、学校訪問のときに言っておられるっていうのは、私も肌

	<p>身に、この3年間感じております。それで、厳しく言っている教育委員会側が、僕が夜8時過ぎぐらいに、ウォーキングをしているときにも、教育委員会に電気がついていて、ということが本当によくありますので、労働時間について厳しく言っている側が、やはり働き方改革っていう部分をもう少し、見直したらどうかなって思う部分ですね、上島町の運営の人員については大変厳しいとは思いますが、これからの学校の適正配置問題等で、抱える問題がたくさん、大きくあると思うんです。その人事的な配慮っていうのを、町の方にもちょっと、できないものかなと要望、お願いしたいなと思う限りでございます。</p>
議長(町長)	事務局・担当課から何かございますか。
田坂教育長	<p>教育長として非常に頭が痛いというか、先ほどご意見があった国、県のいろんな書類調査、そういったものもでございます。それが無くなることはないの、便利になればなるほど仕事量が増えるという一面もでございます。そこが、私としても非常に辛いところがありまして、やらなくて済むならそうしたいところですが、しないといけない。そうすると、我々の部下である指導主事、課長にその負担がいつてしまうのは、仕方がないところはあるんですが、ただ、その中でも、できるだけスリム化を図りながら、働き方改革をしていかなきゃならないと思っておりますので、何とか頑張ってやっていこうと思います。</p>
議長(町長)	他に何かございますか。
寺下教育委員	<p>基本のところから外れるかもしれないんですけど、小中学校平均で月37時間ぐらい、残業されているということはもう、人員的に1人ないし2人、職員数が足りないような状況の中で、学校運営をされているのかな、というところが、まず感じた中で、その1人2人を増員できるような、ルール上の学校の職員配置というは決まっているかと思うんですけど、そういった中で、教職員の団体さんが文部科学省ないし国会議員さん方に、どうにか職員をふやしてくれっていうような、働きかけをされているのかどうか、情勢っていうところがわかりましたら教えていただけたらありがたいです。</p>
議長(町長)	事務局お願いします。
事務局 (井出指導主事)	<p>教職員の定数というのは、学級数によって割り振られております。これは義務標準法という法律がありまして、それによっておりますが、文部科学省としても、財務省の方には、人員を増やしてくれ、定数を見直してくれっていうようなお願いはしていると聞いてはおります。国もお金の問題もあるでしょうし、そことの兼ね合いで。ただ、来年度、中学校1年生に関しては、あまり上島町には影響ないんですけども、35人学級が導入されます。順次これが9年度には中2に、中3が10年度というふうに拡大していくというふうに聞いておりますので、全国的に見ると若干、教員の数が増えていくというか、減らないというところなんです。</p>
議長(町長)	<p>他にございませんか。それでは次に移る前にひとこと。学校の先生、大変だと思います。でも、その日がしんどくても、リフレッシュできれば、また継続、頑張れるんじゃないかと思えます。そういった中で、休みの日や就業時間が終わった後に、保護者の方からいろいろ言われたら、多分リフレッシュできないんじゃないかなと思います。学校内のことは、校長先生はじめ、しっか</p>

<p>事務局 (井出指導主事)</p>	<p>りコントロールできると思うんですけど、やはり、保護者の方々も、その辺り、先生の体調も気づかっただいて、リフレッシュできる時間を提供すると。休みの日にまで言ってくるというのは控えていただけますよう、保護者の方も心がけていただけたらいいかなと思います。次に、上島町学校適正配置基本計画(案)について事務局から説明を願います。</p> <p>引き続きまして、私の方から説明させていただきます。 (資料に沿って説明 以下概要)</p> <p>児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化・複式学級の増加を受け、令和7年3月に第2期「学校の在り方検討委員会」を再開し、学校配置の最適化について協議を行った。その結果、学習環境の確保や既存施設の活用を踏まえ、次のとおり学校統合を行う提言書が示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学校統合の基本方針 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校→弓削・生名・岩城を統合 … 令和10年度から弓削小学校の施設を使用 ・中学校→弓削中・岩城中を統合 … 令和11年度から弓削中学校の施設を使用 ・魚島小中学校 … 離島留学制度(さざなみ留学)を活用して現状維持 ■ 統合が必要とされる背景 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数が今後さらに減少し、全小学校で複式学級が発生する見込み ・複式化は教員数減少や教育環境の負担増につながる ・中学校も令和8年度をピークに減少が予想される ・校舎の老朽化・長寿命化工事の必要性 ■ 統合準備で協議する主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校運営の詳細 ・通学手段の確保 ・教育体制の充実(小中9年間の一貫カリキュラムなど) ・地域の教育・文化拠点としての機能維持 ■ 骨子案を基に開催した説明会(2月10日開催)で出た主な意見と町の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・周知・開催時期への指摘 → 再度説明会を実施予定 ・複式学級への懸念 → 教育上の負担が児童・教員双方にとって大きいことを説明 ・子どもの意見の扱い → PTA等を通じて反映していること、将来を見据えての展望は大人の仕事であることを説明 ・統合への賛否 → 地域ごとに意見が分かれるが、PTA等の意見書も尊重すると説明 ・校舎の耐震性への疑問 → 耐震補強と長寿命化工事は目的が異なることを説明 ・少子化対策との関係 → 統合は必要だが、人口減対策も併行して実施 ・離島留学の全島展開の要望 → 統合で複式解消が見込まれるため現段階では検討せず ■ 今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・説明会を追加開催し、住民の理解を深めながら進める ・学校設置条例の改正など、議会での手続きが必要
<p>議長(町長)</p>	<p>ただいまの説明につきまして、何かご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>大船教育委員</p>	<p>先ほどの定例会では、あえて発言はしませんでした。今現在の自分の考えについて述べていきたいです。先ほど上島町学校適正配置基本計画骨子案の説明がありましたが、その</p>

	<p>中の2番で、具体的な学校適正配置計画の内容が1、2、3と示されています。この適正配置とは何か、何をもちて適正配置というのか、ということは私自身、考えれば考えるほど、本当に難しいことだと感じております。昨年の12月の定例議会でも一般質問があり、統合するのがよいのか、しないのがよいのか、いろいろと議論されて、結局、どっちが良いかという正しい答えは存在しないということだったように記憶しています。子どものよりよい教育環境を整えるにはどうすればいいか。よりよい教育環境とは何か。複式学級を解消して、大勢の中での教育がよいのか、あるいは複式学級でも少人数でやったほうがいいのか。これについては、それぞれ子どもの個性によって、メリット、デメリットも違ってくると思います。この統廃合については、今までの定例教育委員会でも、山本委員さんから、岩城から弓削まで通学するのは、子どもたちへの負担が大きくなる。また、地域の教育施設がなくなったら、地域コミュニティの衰退に繋がる。など、岩城地区住民の思いを何度となく訴えておりました。また反面、あり方検討委員会の会議録を見ますと、早く統合して、複式学級を解消して欲しい、という保護者の意見も多数ありました。先ほども言いましたが、統合するのがよいのか、しないのがよいのか。これについては、住んでいる地域など、それぞれの環境によって大きく違ってくると思っております。私も、第1回から第6回までの会議録を見させていただき、今回の提言書を取りまとめるまでには、検討委員会の委員の皆さん、各学校PTAの皆さん、各保育園保護者会の皆さんなど、多くの関係者の方も大変なご苦勞があったことがよく伝わってきました。私としては、子どものよりよい教育環境の整備を最優先に考えて、総合的に判断していきたいと思っております。</p>
議長(町長)	他に何かございませんか。
山本教育委員	<p>学校適正配置基本計画というものに関しまして、本当に、何度も何度も話し合いを重ねて参りました。私も直接、教育委員会教育長、指導主事の皆さんにも、訴える場面もございました。そしてまた、岩城地区住民の有志たちによる、様々な取り組みは、不断の努力でなされております。そして、もちろん当初はあり方検討委員会で、保護者の皆さんが独自調査をしながら、それを暑い中、お忙しい中、繰り返し集まっての、しかももうお葬式のような会ですね。皆さん板挟みで、どちらをとっても苦しい。それを一番今回舐めたのが、岩城地区です。1800名の住民がおり、生徒の数もまだ大きなものです。そしてまた、この度初めて、上島町の全権を采配される上村町長を迎えての、直接の訴えができることを本当にうれしく思っております。今までの経緯に関しまして、上村町長のご見解をお聞かせ願えたら助かります。</p>
議長(町長)	<p>ある程度報告は受けてはおりますけれども、今の段階では正式な答申はございませんので、今まさに、大船委員が言われたように、よりよい教育環境ができる方向で、これからは私たち大人がしっかりと協議を進めていけばいいのではないかなと思っております。今の段階では、この後、例えば準備委員会とか、いろいろ段階を踏んできておりますので、まだ私がこの段階を飛び越して物を言うというのは、控えさせていただきたいと思っております。</p>
山本教育委員	<p>ご見解が、まだ申し上げにくいと言われる、町長のお立場っていうのはお察ししますけれども、これは本当に深い問題でありまして、我々が1年かけて話し合い悩んで、非常に苦しい、1年間でもございましたけれども、その重さなどを、やはり受けとめていただく大きさをもちだとして存じておりますから、いろいろともしっかりと積極的に考えていただくことで、教育課に対する声かけ、配慮、促し方などは、大きなものだと思います。といたしますのも、学校経営に関しまして、魚</p>

	<p>島のさざなみ留学に関しましても、ゆめしま寮の運営に関しましても、また学校設備に関しましても、莫大な予算が使われておるわけです。先般も新聞報道でありましたように、我々が知らないところ、教育委員がまだ何も報告を受けていないものが大きな金額で非常に驚いた次第なんですけれども、これが実際現実でありまして、いかにかこの部分を補強していくかをしていくか、それというものに関しましては、町の采配なしにはありえないことだと思います。いろいろな行事が各学校でございますけれども、もっと足を運んでいただき、お声がけしていただくことができますでしょうか。</p>
議長(町長)	<p>先ほど申し上げましたように順序を踏んでやっていく、例えば町長にすべての権限があるなら、言葉は悪いですが、教育委員会も要りませんし、協議会も必要ない。町長に一任されているならできますが、それは民主主義でも何でもないので、段階を踏んでやっていただく。それでまとまったものが、こののちに、町長のところに提言がある、町長がその提言が良しとすれば、議会に投げかける、そういう流れになりますので、この間を飛び越してやるというのは、私が物を言うのはよくないので、今は改めて中立といいますか、中立という言い方は変なんですけど、特に物を言う段階ではないと思っております。</p>
山本教育委員	<p>それは、この1年の間に多数決で決まった内容という結果になっておりまして、各島の実情、そしていろいろな細かい点で、どんどん話が進むにつれて、いろいろな不信が湧いてきているのが事実なんです。そちらの方について、ひとつひとつ今ここでご説明する時間はないのですけれども、例えば請願が出ているはずですし、要望書も出ているはずですし、この資料にありますように、保護者からの準備委員会への意見書というのものも、すごく深い内容が書かれています。そしてまた先般は、岩城島の63の事業所からの署名が提出されたものなんですけれども、そちらの方は、上村町長に届いているのでしょうか。</p>
議長(町長)	<p>届いています。</p>
山本教育委員	<p>読んでくださってどんな感じの感覚をお持ちですか。これは飛び越えてではなくて、もうすでに話は飛び越えるも何も、もうでき上がっておりますので、私が教育委員会でいくら物を申しましても何も変わらない。ですから、上村町長のお気持ちやお考えに頼っているわけです。</p>
議長(町長)	<p>再度申し上げますが、私の意見で教育委員会の方向性を変えようという気はございません。教育委員会総意でやっていただくということ。(署名等は)見ておりますが、それぞれの意見でございますので、賛成の人もいれば反対の人もいます。それはよくあることだと思います。あとは多数決という意見もございましたが、要は円満にね、しっかりと話をして、本当は総意でやっていただければ一番いいんですが、もう最後の最後はもう、多数決というの、民主主義の決め方のひとつです。例えば私も議会におきまして、こういうことをやりたい、ああいうことをやりたいと提案しても、議会が多数決で反対と言え、もうそれ以上やりようがございませんので、やはりルールにのっとってやっていくべきだと思います。</p>
田坂教育長	<p>よろしいでしょうか。町長さんを前にして失礼なんです、小中高を残すというのは、教育委員会として、教育長としては、これは絶対しなければならぬ。小学校、中学校、高校、どこをなくしても、この上島町にとっては不利益がある。例えば、高校がなければ、就職する人数が得られ</p>

ない。というのは、高校は社会に出る前の最後の学ぶ機関です。その高校がなければ、ここに帰ってくる子は現れない。だから、高校を残さないといけないというのは私も同感です。そのためにゆめしま寮を作って、1人でも2人でも増やして、そして高校を存続させるということは、これは絶対に必要なことです。特に今、県が、国が、学校を統廃合していこう、高校も整理、統廃合していこうというふうになっています。そこで、いろんな規定がある中で、弓削高校が25人、30人を常にキープできれば、高校は残ります。もしも高校がなくなれば、上島町に生まれ育ってきた子ども達が、高校がなくなったら、みんなが町外に出ていかなきゃならない。もうこれは選択の余地はないんです。でも、地元で高校があれば、地元で学んで、そしてそこで切磋琢磨しながら、将来、大人数の中で生きていく力をつけて、そして大学に行って、自分がふと振り返ったときに、地元こんな企業、こんな会社があったということで、帰ってきて欲しい。高校があれば帰ってくる可能性はありますけど、高校がなければ帰ってこないです。そういった意味でも、高校を守らなければならない。あるいは、中学校も守らなければならない。その下の小学校も守らなければならない。保育所も守らなければならない。学ぶ施設を必ず最低ひとつ、これを残していかなきゃならないと思っています。それは、教育委員会としても真剣に考えているし、先ほどからずっと言われているように、統廃合に関しては、地元の方の気持ちはよくわかります。ただ、もう一步先を見たときに、子どもたちにとっての最良な、ベストな環境を整えてあげて、どこに行っても頑張れる力をつけて、そして願わくば、上島町に帰ってきて、上島町で活躍して欲しい。というのが、我々の考えです。教育委員さんにも、それぞれお立場があって、お考えがあって、それをすり合わせ、我々も話し合いをしながら折り合いをつけて、これからの第一歩を踏み出しなきゃならないし、10年、20年先の方向を見据えて、慎重に考えていかなきゃならないと思いますので、そういった意味で今まで検討も協議もしてきたと思います。だから、山本委員のお考えが、受け入れられない、というのもいろいろちょっと心配なんですけど、十分聞いた上で、山本委員のご意見、大船委員のご意見、古江委員のご意見、寺下委員のご意見を網羅しながら、やはりいい方向をとっていかなきゃならないと私は思っています。ですので、まずは教育委員会でしっかり話をしながら、教育委員会事務局でしっかり住民さんへの説明をしながら、正しいことを伝え、そして教育の必要性を伝え、そして同意をしていただければ、ありがたいと思っています。同じ方向に向くために、いろんな対応を私はしたい。ただ、今、岩城さんに関しましては、方向が、我々とは違う方向を向いています。例えば、学校を残したいという感情が先に走っているのかもしれませんが、少しでもベクトルが同じ方向を向くために、じゃあ、こういうときはどうしてくれるんだ、これがなくなったときどうしてくれるか、というのがあれば、そういう意見をいただければ、我々考えるし、教育委員さんにも一緒に考えていただきたいと思っています。住民、地域の方の思いも大切です。なんとか対応したい。けども、子どもたちの教育環境も守ってやりたい、将来を見据えれば、絶対にそれをしなければならない。そこに目をつぶって、地域の方の感情だけを優先して判断するのは、私たちにできないことです。教育委員会としては、子どもたちの教育をやっぱり考えなきゃならない。ただそこが辛いところなんです。その辛さを少しでも、同意に向くような形を皆さんと一緒にお話をしていきたいというふうに思っております。その点についてご理解をいただけたらというふうに思います。お願いいたします。

寺下教育委員

先ほど山本委員の方から請願の話が出たんですけれども、こちらの請願内容は教育委員は拝見することはできないでしょうか。教えてください。

事務局 (学校教育課長)	議会に出された請願については、現時点では、我々が見ることはできません。
議長(町長)	明日くらいになるのかな。私のところにもまだ届いていないです。
寺下教育委員	地域の意見っていうところは、どういう文章で上がったのかちょっと気にはなって、逆に教育委員として、そういう意見を知らないままで基本計画策定に賛否をするのはやっぱり、いろんな情報をいただきながら対応していきたいというところがあるので、もし可能であれば、可能なかどうなのかわからないんですけども。
議長(町長)	ちょっと専門家に。議会に出てきて、公表されるというか。
事務局 (総務課長)	確認させていただきます。
寺下教育委員	無理を言うわけではないので。そういうことがあったということを知りたかったのです。
議長(町長)	こんなことを言ったら怒られるので言わない方がいいんですけど、隠す資料ってないんですよ、上島町には。情報公開請求のルールは守ってもらわないといけないんですけど、これは隠しとこうという情報は、個人情報以外ないんです。ですから、私は適切に、公表するよと言っていますので。あと順序があって、例えば議会が出す前にどうして教育委員会にまわしたんだということがあってはならないので、ましてや私のところにも来ておりませんので、ご理解いただいて、公表できる段階になったら、教育委員の皆さんに見ていただくべきだと、今のところの個人的な見解であるわけですが。
寺下教育委員	2点目なんですけども、基本計画があって、これから統合準備委員会の方が立ち上がっていくなかで、私も古江委員と同じ意見なんですけど、大変忙しくなるような状況の中で、教育委員として、上島町教育委員会の人員配置について、町長さん方にはぜひ、ご配慮をいただきたいというご要望をさせていただければと思います。よろしく願いいたします。
議長(町長)	忙しいとは聞いておるんですが、総人員の関係もございまして、その辺、ここで言うことはないんですけど、国交省に派遣したり、県に派遣したり、或いは愛媛県東京事務所に派遣したりということで、私は色々なところに派遣したら、その人のスキルアップになるので、ひいては上島町民のためになると思うんですが、なかなか人員配置の関係で、私の力及ばずということもございまして。もうひとつ余分なことを言うと、人事に関しては、課長ぐらいならある程度わかるんですが、そこから先になると、なかなかわからないというのが現実でございまして、であれば、その人事を持っているところがしっかり責任持って計画を立てて、ということでございますので、今のご提案については、教育委員会と人事がしっかり話し合うのが一番いいことだろうと思います。もう一点、指導主事さん等々におきましては、私はおそらく他の自治体より早く、指導主事を配置させていただいております。私の基本的な考えはそこにあります。
山本教育委員	教育に対して、今まで数々のご配慮をいただいているのはわかっております。私も皆様の

お忙しい中、非常にかき回すようなことを言っていますのは、これは口を開くと、総論として、何か間違っていることを、間違っただけに理解して、間違っただけに突き進んでいるのを、ちょっと考え方を改められたらどうですか、というようなまとめになっていくというのは、残念ながらところです。今までの1年間も、岩城島の意見はそのような形で、何か本当にこちらの不手際がかなりあったかもしれないんですけども、最終的には、意図を理解していただくことが正確にできなかったというところを、残念に思います。適正な生徒数で、新しい学校生活を、夢を育む生活を目標に邁進していきたい。それは本当に私も、何年か教育委員をしておりますので、その思いしかございません。すべて弓削の子から、佐島、生名の子、魚島の子まで、他所から縁があつてきた子どもたち一人ひとりのために、本当の、一番最高の教育をしてもらえたらなっていくうちに常日頃思っておりますけれども、やはり、何かあらゆることが、こちらの高校に然り、ですけれども、弓削商船が歴史ありますよね。そしてまた弓削高校も頑張つて皆さんの全力で、県にまで訴えて、本当にここにいらっしゃるメンバーの中にも、県までを熱い思いでね、学校を残すために戦った皆様がここにいらっしゃるの存じています。そういう生名島とか、佐島、岩城、魚島、それぞれの地域が本当に円滑にこれから先の未来を描けるように、今、例えば岩城島にも企業がありまして、それは今伸びておりまして、非常に悪いときもあるかもしれませんがけれども、かなりの可能性で、新しい若い住民を迎えておりまして、必ずその人たちが芽づる的に、子どもを産み育て、もう本当にすぐそこまで来ておりまして、本当にそれを思うと、なぜ、中心の部分に、我々からも、弓削からも、どこからも平等な距離感で、子どもの体の負担も平等で済むことが、選択できない理由がいろいろと言われまして、今、弓削ということに、小学校も中学校も1校になりまして、これはこうして今日の会議もそうなんですけれども、上島町に住んでいるからには、弓削に住まないといけないな、そういう結論に至りました。感覚的には岩城島の住民の感覚です。それがやむを得ない、仕方がない、もう子どもたちはそれで幸せになる。本当にそうでしょうか。シビックプライドって叫ばれて、私も地域の活動のために、ボランティアでいろいろなことを考えて、地域を、何なんだろうかね。ちょっと見捨てられたようなものでも、磨いたら光る。すごくそれがまた未来を生み出している。そういうものを手応えとして、私も成功体験を、小さいながらも重ねて参りましたので、この教育にもチャレンジとか、夢を描いて、本当の上島町民全員のための夢を育む学校のあり方について、何か、学校あり方検討委員会で、ずるずると決まった。ずるずるじゃないんでしょうけど、決まったものが、方向転換、修正できないかなっていくふうには、努力して参っておりますけれども。次の住民説明会、いつをご予定されてるんでしょうか。お願いいたします。

事務局
(学校教育課長)

まだ日程は決まっております。なるべく早い段階で、行いたいと考えております。

議長(町長)

他にございませんか。

古江教育委員

あり方、適正配置について、まだ何か意見はないんですけど、報告を受けてですね、一番、話の本質の、田坂教育長がおっしゃられた部分ですね。令和3年のあり方検討委員会から始まって、今回は2期目。1期目で、複式学級の対策を言ったときに、時期が早いと言ってですね、生名小学校では複式学級が始まってしまっている。そしてこれからもっと増えていくっていう状況を、どのように大人が考えて、子どもたちの教育を良くしていくかっていう本質から絶対に外れてはならないと思います。それに、学校がなくなる地域の方の気持ちはものすごくわかる

	<p>んですけど、それを子どもの未来に押し付けるっていうのは、ただの大人のエゴだと私は思います。そんなつまらないことで、子どもの未来を、教育を、損なうようなことをしてしまうと、ますます上島町の小学生・中学生っていうのは減るんじゃないか、というのが、一番怖いんです。今でも、小学校は上島町内の学校に行く。でも、この少人数では、やはり学べるレベルが限られてくる。親は子どものために、中学校から他の地区へ行くんじゃないでしょうか。そうなったときに、やはり、田坂教育長が言ったように、学校の維持が難しくなるっていうことは、ふるさとへ帰ってくるという、未来への投資ができなくなる。もっと未来のことについて、熱意を持ってですね、このあり方っていうのを、考えるべきなんだと思うんです。そうなったときに、やはり、住民感情は大事なかもしれないんですけど、今、子どもたちを育てている親は、これから小中学生になっていく親の意見は、どれだけ大事なことになるのか。あり方委員会が示した提言書、今のPTAの方々、もう1歩先に進んでと思うんです。今からどうして元に戻すんですか。そういったことで、今、目標にした委員会の上げてきた提言書っていうのは、もっと尊重し、みんなが、それぞれがどこで着地点を見つけるのか、という話し合いにもっとしていかないといけないと思うんです。さっきの業務の話もありましたし、寺下委員さんも言われたように、本当に教育委員会にかかる負担っていうのはものすごくこれから大きくなりますし、上島町の将来のために大事だと思いますので、そこのところをやはり配慮していただきましてですね、町長にもよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
議長(町長)	<p>それぞれに貴重なご意見をお伺ひしました。改めて私も、直に教育委員さんからご意見を聞くのは、この問題に関しては初めてでございますので、大変感謝をしております。本当に一番重要な案件なので、この話題は24時間やっても終わらないぐらいだと思いますが、もう12時が迫ろうとしている中、どこかでまとめないといけませんので、申し訳ございませんが、この議題に関しては、これで終了させていただきたいと思ひます。</p> <p>次に、その他でございますけど、何かお気づき点も含めて、何かございませんでしょうか。よろしいですか。それではないようでございますので、議事進行は終了させていただきます。どうもありがとうございました。事務局お願ひします。</p>
事務局 (総務課長)	<p>それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回管理事務所総合教育会議を終了とさせていただきます。皆様お疲れ様でございます。はい。どうもありがとうございました。</p>
全員	<p>ありがとうございました。</p>

署名 上島町長 上村 俊之

署名 上島町教育長 田坂 敏